

ちょっと気になるデータ

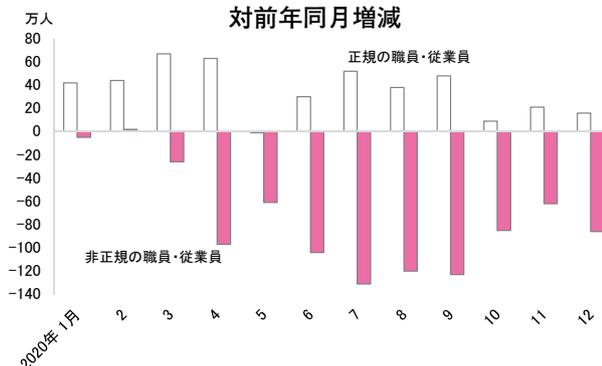
正規の職員・従業員、非正規の職員・従業員

— 労働力調査(基本集計)結果から —

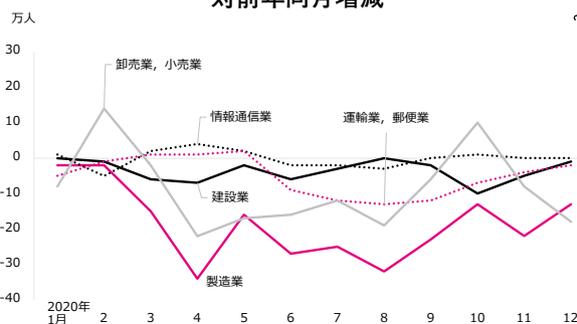
2021年1月29日に総務省統計局から「労働力調査(基本集計)」の2020年12月の結果が公表された。その中から雇用者についての結果を紹介する。

12月の雇用者数は5,984万人で前年同月に比べて59万人の減少となり、2020年4月以降9か月連続の減少となっている。雇用者のうち、

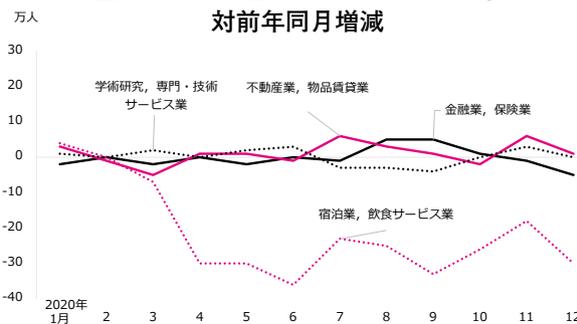
正規の職員・従業員、非正規の職員・従業員
対前年同月増減



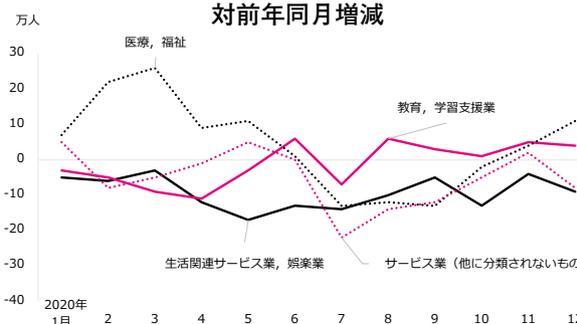
主な産業別非正規の職員・従業員数①
対前年同月増減



主な産業別非正規の職員・従業員数②
対前年同月増減



主な産業別非正規の職員・従業員数③
対前年同月増減



正規の職員・従業員数は3,534万人で、前年同月に比べて16万人の増加、非正規の職員・従業員数は2,093万人で86万人の減少となっている。

2020年1年間の月ごとの推移についてみると、正規の職員・従業員数は5月に1万人減少となった以外は増加で推移している。一方、非正規の職員・従業員数は2月に2万人増のあと3月に減少に転じて以降は減少で推移し、6月から9月には100万人以上の減少となっている(6月104万人減、7月131万人減、8月120万人減、9月123万人減)。10月以降は減少の幅は縮小しているものの、依然として減少が続いている。

この非正規の職員・従業員の減少について、産業別にみても、直近の12月では、「建設業」、「製造業」、「運輸業、郵便業」、「卸売業、小売業」、「金融業、保険業」、「宿泊業、飲食サービス業」、「生活関連サービス業、娯楽業」、「サービス業(他に分類されないもの)」で減少となっている。この1年間の推移をみると、「製造業」と「生活関連サービス業、娯楽業」では12か月連続の減少となっているほか、「宿泊業、飲食サービス業」では3月以降、「運輸業、郵便業」では6月以降減少が続いている。

(調査部 統計解析担当)